1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000505		
法人名	社会福祉法人 弘成会		
事業所名	グループホーム しんとみ希望の里		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字下富田字小島江629番地5		
自己評価作成日	令和5年6月16日	評価結果市町村受理日	令和5年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和5年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方のこれまでの経験などを生かしてできることに取り組んでいただき、得意なことを役割として持っていただきながらやりがいや意欲のある生活が出来るように支援を行うようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地中心部から少し離れた静かな環境の中の敷地内にあり、その敷地には高齢者福祉施設が複合的に設置されている。そのため、利用者間の交流や医療職員との連携、災害時等の避難などが総合的に体制が整えられている。職員も法人全体の中で異動があることで、自己研鑽等に努めている。地域の防災の拠点ともなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義やグループホームについての勉強会を行い、理念についても共有できる機会を設け実践している。	「地域で生活を継続すること」「より家庭的な環境」での生活を継続できるように、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を職員間で共有し、日常のケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩している際に挨拶を交わしたり、声を掛けていただいたりして交流の機会を少しずつ持つようになってきている。	感染症対策のために積極的な交流は控える中でも近隣の散歩の際にお互いに声を掛け合ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者の方の状況報告などを行う中で、認知症についての説明等を行い住民代表の方に向けて伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の現況報告や活動について報告し、頂いた意見などを提供するサービスの参考にしていく。	行政や包括支援センターをはじめ多様な参加者の中で「介護」の実情等を説明・理解を促しながら相互の意見交換を行い、日常のケアやホームの運営にその意見を反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点がある際には電話などで確認や相談を行っている。運営推進会議でも質問など頂いて良い関係が築けている。	包括支援センターも町直営であり、行政と併せて、意見交換やホームの運営の意見がもらえるなど連携が十分に図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の開催や勉強会を行い、身体拘束にあたる言動など振り返るグループワーク等を行っている。	法人内・施設内及び施設外での研修等に参加し、身体拘束に関する知識等を高めるほか、日常的に職員間での振り返りを行うことでより身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を定期的実施し、不適切なケアが行われないように職員間で声を掛け合うように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修で学ぶ機会を持つようしており、情報共有を行い必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等行った際には説明と疑問や不明点はないか確認し、何かあった際には後日でも連絡をいただくように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡を行い状況報告を行う際や、面会や物品を届けていただいた際にも近況報告を行いながら要望や意見など伺うようにして、サービスやケアに取り入れて反映させている。	電話やお便りでの利用者の状況の報告や面会の機会を持ちながら家族等の意見を聴取し、感染症対策の中での面会方法や運営やケアの実践にその意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員ミーティングを実施し、職員の意見など伺い改善や変更など行っている。	月1回職員のミーティングを行う。その内容を「ミーティングノート」に記載し、職員への周知やケアの統一の実践に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や勉強会等で取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流はなかったが、改めてサービスの質を考え取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後に不安少なく生活できるように、事前面談にて自宅での様子や困っている事、今後の生活についての気持ちを伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて入居することのご家族の気持ちを伺い、入居後の生活について説明等行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がどのような生活を望んでいるのか確認し、必要な支援により不安の少ない生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことを確認しながら、生活に必要な家事などそれぞれの能力にあわせて一緒に取り組み、意見等確認し一方的にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や必要物品の準備など家族に依頼し、関わりを持って貰えるようにしている。その他、毎月おたよりにて活動の様子をお知らせしたり、面会時にも近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前に行っていた自宅など馴染の場所周辺のドライブは出来ていない。併設施設をきょうだいや知人が利用している方がおり、面会や訪問をして交流が持てるようにしている。	同敷地内の通所介護や特別養護老人ホームの利用者との交流を、感染症対策に留意しながら行うことで馴染みのある環境との関係の継続性が図れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の仲介を職員が行い、声を掛けるきっかけづくりをしている。利用者の能力に応じて、それぞれができる範囲で関わりあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受けた事はないが、契約が終了した際に何か困った事など今後あれば相談を受ける事を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より直接聞き取りをするだけでなく、日常の会話や表情などから思いや希望を汲み取るようにしている。	利用者個々のレベルに応じた気持ちの良い生活を送れるように、日常的な会話や表情、通院時の情報などをもとに本人の意向を日常生活やケアに反映できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて本人、家族より生活歴を伺い生活の中で活かしている。サービス利用の経過は居宅ケアマネや事業所に確認する事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のできること・できないこと、入所前からの習慣などを把握し些細な変化なども情報共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を観察し、利用者間での会話や職員とのコミュニケーションから意向や要望を汲み取り確認し見直しを行っている。家族には状態報告を行い意向を伺い、担当者会議に出席して頂き話し合っ計画書を作成している。	介護支援専門員を中心に計画案を作成し、担当職員の意見を共有しながら計画を作成している。担当職員による支援経過やモニタリングも職員ミーティング等で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で普段とは違う言葉や行動などみられた際には、状況と対応などをノートに記録している。職員間で情報を共有し経過を観察していきながら介護計画等やケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが出てきた際には職員間でも検討し、必要時には併設施設などの協力をもらいながら取り組むように心掛けている。		

宮崎県新富町 グループホーム「しんとみ希望の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で実施できていなかったが、夜間防災訓練などには近隣の住民の方や地域の消防団などの協力も得て地域とかかわりを持つ事が出来る様にしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の面談で説明し、かかりつけ医の診療を希望される際には受診時に状態報告など行っている。協力医がかかりつけとなる際には往診(2回/月)の支援を行っている。	かかりつけ医の受診を家族の協力のもと継続している。その際は家族に近況の情報提供などを十分に行っている。身体機能が低下して受診の外出等が困難になった際は協力医院の往診に切り替えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員への報告・相談を行い適切な医療支援が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の連携室に定期的に連絡を行い、経過や状態確認を行い退院までの目処など伺う等医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議や面会時などに状態報告を行いながら、家族や本人の意向を確認し状態に応じて看取りのマニュアルに添って同意書など使用しながら対応していくようにしている。	グループホームでの看取りを十分に書面を用いて説明している。また利用者の状況に応じて適宜、家族の意向を確認している。併設施設の看護師との連携を持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や申し送り時の訪問したNsIに相談する等行い、迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回の防災訓練を実施している。コロナ禍以前は併設施設と年に1度夜間総合防災訓練を行い地域の消防団や住民の協力を得ていた。	月1回、火災の防災訓練のほか、年2回水害に関する避難訓練を実施している。地域の防災拠点にもなっており、近隣との連携も十分に図れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴などこれまでの背景や日常の様子から一人ひとりの意向など尊重し、プライバシーを損ねない様にさりげなく見守りや声掛けを行い対応している。	入浴や排せつの場面では同性介護に配慮している。その他利用者個人の呼称についても尊厳に配慮を行いながら声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、本人の希望や意向を確認しているが、自分で上手く伝える事ができない方には日常の様子などから選択しやすい様に言葉かけなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごす事が出来る様に、アドバイスや声掛けを行い支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の準備など自分で行ってもらったり、散髪などでも行く前に職員がどのようにしてもらいたいのか確認し、自分で伝える事ができなかったときには本人希望の髪型にしてもらえるように代わりに伝達したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話などから好みのものなどを探り、献立に活かしている。食事の準備や片付けまでの作業の中で能力に応じて出来る事を職員見守りや一緒に取り組んでいる。	食事に関して、利用者個々の能力に応じながら調理作業に参加している。給食委員会を通じて食事の内容の検討などを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士により食事のバランスは管理されている。食事摂取量のチェックを毎食行い、摂取量の確認を行い、水分摂取が進まない方は細目に提供したり、清涼飲料水を準備してもらい確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い各居室で歯磨き等行って貰っている。忘れてしまったり、動作に不十分さがみられる方には声掛けや確認をしている。		

宮崎県新富町 グループホーム「しんとみ希望の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて声掛けや誘導、介助など支援している。排泄動作も出来る所までは自力で行って貰い、不十分な部分の介助で対応するようにしている。	立位が困難となった利用者でも2人介助でトイレで排泄させることで排便が適切に行えるなど、身体状況にも合わせながら、できるだけ「トイレでの排泄」ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや体操など体を動かす機会を設け便秘解消や予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があった際には入浴できるように対応しているが、自ら入浴を希望される方はいない為、職員より声掛けを行っている。	日中の時間帯に週2～3回入浴ができるように取り組んでいる。本人の意向やペースに合わせた入浴が行えるほか、冬至などの季節湯も楽しめるようにしてる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースで休息、安眠できるように支援している。周囲に合わせようとする利用者もいるため、本人の意向を確認しアドバイスしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の服薬状況をいつでも確認できるようにファイリングしている。変更や追加があった際には情報伝達を行い、確認・観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での掃除や洗濯、食事などの家事を能力に応じて出来る事に取り組んで頂きやりがいを感じてもらえるようにしている。また、プランター菜園にて成長を楽しみにして水やりや草抜きなど意欲的に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は家族と一緒に外出や自宅に外泊をされることもあった。現在は近隣の散歩を行っている程度である。	現在も含め、感染症対策として積極的な日常の外出は行っていないが、近隣の散歩を行ったり、同敷地内の施設の利用者との交流を図る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブなど行った際にお金を所持してもらい買物をする機会があったが、コロナ禍で外出も出来ない為お金を使う機会はほとんどない状態。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などへ電話など希望される際には対応している。家族より贈り物が届いた際は電話にて受け取りの報告と共に本人と話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールがオープンスペースで台所もあり、食事が出来る様子や香りなど感じることが出来る。季節の花の折り紙を飾ったり、日めくりカレンダーを設置し季節を感じられるようにしている。	ホールから居室なども多く見渡せる、広々とした環境で利用者がのんびりと過ごしている。装飾品等で季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに畳やソファなど設置しており、テーブル席とそれぞれに過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた湯呑や寝具などを持参され、使用している。ご家族の相談があり、亡くなったご主人の写真などを飾っている方もいる。	全室畳で、暖かい雰囲気のある居室である。慣れ親しんだ家財や写真を自室に持ち込むことで、より家庭に近い環境で生活できている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札を目線の高さに合わせ見やすく設置したり、排泄面での不安や移動に支障がみられる方はトイレから近い居室にするなど対応し自立支援のために工夫している。		